

働き盛りも「終活」

30~40代、相続・遺言どうする

葬儀のあり方や自分の人生の最期をどう迎えるかを考える「終活」が働き盛りの世代に広がっている。相続や遺言に関する資格試験の受験者は40代が3割と最も多く、葬儀の相談でも若い世代が目立つ。家族葬が増えて親類や知人の葬儀に出る機会が減る中、突然の親との別れや東日本大震災などが自分の最期についても考えるきっかけになっているようだ。



人生の終わりを考える「終活」の講座には30代、40代の参加者も多い(3月30日、大阪市中央区)

資格取得や葬儀相談

相続や遺言など人生のエンディングに関する知識を認定している社団法人「終活カウンセラー協会」(東京・品川)は2011年7月に発足。東京で資格試験を始めたが、全国から要望があり、大阪や名古屋などでも実施するようになった。これまで計12回の初級検定資格試験受験者のうち、40代が約3割を占め、30代と合わせると、ほぼ半数に上るといふ。

公的な資格ではなく、個人的に人生の最期への不安を解消したい人や、葬祭業などこうした相談を受ける機会がある人なども受験している。

「元氣だった父が事故で急死し、自分や母にもいつ何があるかわからないと思うようになった」。今年3月に試験を受けた兵庫県明石市の女性会社員(32)は参加理由を説明する。「父のきょうだいは遺産を巡り散々めめた。同じような経験をしないために前もって学んでおきたい」。

関東、関西、中部エリアで葬儀の相談を受ける葬儀サポートセンター(東京・品川)によると、この10年間で受けた相談約1万7900件のうち、半数が30~40代から、すぐに葬儀が必要でない

事前相談の割合が徐々に増えているという。

人生の最期に向けて準備しておくグッズも人気だ。コクヨS&Tが10年に発売した「もしもの時に役立つノート」は遺言や相続のほか、亡くなるや凍結される銀行口座の情報や電気など公共料金の引き落としについても記載できるようにした。同社が10年12月に約1000人に行ったアンケートでは購入者の約3割が40代以下だった。「エンディングノート」とも呼ばれ、今年3月までに約40万部を売り上げたヒット商品だ。

終活カウンセラー協会

の武藤頼胡理事は「家族葬などが増えて近所の葬儀に行く機会が減り、本大震災を目の当たりにしたりして、人生の最期について考える若い人が増えたのでは」と分析している。

50~60代悩み切実

「子に迷惑かけたくない」

葬儀サポートセンターによる問い合わせが増えている。「夫婦と、葬儀に関する問い合わせは一緒に入りたい」という人が50~60代からの相談も全体の約目立つという。有料老人ホーム4割、70代以上を含めると約半「宝塚エデンの園(兵庫県宝塚市)では2010年8月、入居者を掛けたくない」「お墓を継ぐ者と配偶者を対象にした共同墓地を建立。納骨堂に設けられた400区画のうち、既に90区画で申し込みがあり、同園の大和地区の生前申し込みは65歳以上に限定しているが、を掛けたくない人やそもそも頼「65歳に満たない年齢でも何と親類がいない入居者からの問い合わせが多い」と話している。

「迂回寄付」の大阪維新府議 門真市長選出馬を断念

大阪維新の会の宮本一孝府議(42)は門真市長選出馬が政党支部に寄付した個人資金を後援会に還流させて税控除を受けていた問題で、宮本氏が10日、大阪府庁で記者会見し、6月の門真市長選への立候補を断念すると表明した。

宮本氏は「法的には問題ないと思っていたが、納税者の感覚とずれていた」と謝罪。「市の実情や改革を訴えるのに説得力がない」と出馬断念の理由を説明した。

この問題を巡っては、大阪維新幹事長の松井一郎府知事が9日、「猛省すべきだ」と述べた。両

氏は10日、府庁で会談し、宮本氏が出馬しない意向を伝えた。

維新2衆院議員「迂回寄付」発覚 自民市議時代 日本維新の会の馬場伸幸衆院議員(48)は大阪17区と井上英孝衆院議員(41)の同1区が、いずれも自民党所属の市議だった2009~10年、党支部を迂回して自らの資金管理団体などに寄付していたことが10日、分かった。

馬場氏の事務所は「全ての寄付を党支部で受ける方が分かりやすいと考えた」と説明。井上氏の事務所は「今後こういうことはしない」としている。

盗撮裁判官を罷免

弾劾裁判所「司法への信頼失墜」

国会の裁判官弾劾裁判が審理する裁判。不服申事案より軽微だ」という所(裁判長・谷川秀善参事補は罷免が確定、同時華井判事は判決言い



華井俊樹判事補に対する判決を言い渡した弾劾裁判所法廷(10日)

線路内に自転車 近鉄電車が接触

羽曳野

10日午後9時ごろ、大阪府羽曳野市高鷲1の近鉄南大阪線藤井寺~高鷲駅間の高鷲1号踏切で、古市発大反可部野橋行き

る。同踏切では3日にも放置自転車と電車が接触する事故が起きており、同署は関連を調べる。

ピックアップ

東大寺大仏へ 寄進示す木簡 神戸の遺跡で発見

控訴審初判6月17日に 元大阪地検特捜部長ら 大阪地検特捜部の捜査資料改ざん・隠蔽事件で犯人